

ぐりふあん letter



おひさま発電所 2 号機 あけぼの保育園



おひさま発電所 5 号機 夢窓幼稚園

index

- ◆ おひさまプロジェクトが始まります！
 おおやけこども園
 安全農産供給センター . . . 2
- ◆ 化石燃料からの移行に関する第一回国際会議の報告気候変動 . . . 3
- ◆ きょうとグリーンファンド設立25周年に寄せて
 2026年 総会報告 . . . 4
- ◆ 京都市内の太陽光パネルリサイクル施設見学会 . . . 5
- ◆ 2026年度 環境学習 . . . 6
- ◆ 安全農産供給センターに、おひさま発電所ができること
 編集後記 . . . 7

おひさまプロジェクトが始まります！！

◆おおやけこども園 おおやけこども園に、新たなおひさま発電所ができます！

大宅保育園（現おおやけこども園）に 10.125kW の太陽光発電設備ができたのは、2010 年でした。「おおやけエコ発電所プロジェクト」として、スタッフの方々と学習会、寄付をしてくださった方に差し上げる「おひさまカード」制作、点灯式……。点灯式では、子どもたちが「青い空　きれいな水をいつまでも」「水と土と生き物　みんなで命の輪」「エネルギー　資源は節約　もったいない」「食べ物は　残さず食べるよ　いただきます」「地球には　友達いっぱい　こんにちは」とエコ宣言をしてくれました。それから 15 年余り。この時の子どもたちは、今はもうすっかり大人になったはずです。

そして 2026 年、園長先生から別館ができたんで、またお願いできたら……。とご連絡をいただきました。久しぶりに、おおやけこども園を訪問すると、3 歳までの子どもたちが過ごす別館が出来ていました。道路からも見渡せる屋根に、太陽光パネルが並ぶとしたら、子どもたちからも見えるのではないかと想像し、楽しみにになりました。



おおやけこども園別館

また、2010 年に設置した設備以外に、新築された本館にもすでに 5kW の太陽光パネルを設置されていましたが、空いているスペースにさらにパネルを増やしたいというご希望を持っておられました。

従来よりエコ活動として、ソーラーカーのおもちゃの乗り物や、廃油・アルミ缶の回収など、続けておりましたが、「できることを一つひとつ取り組み、家庭や地域に広げたいと思っています」という変わらぬ姿勢が、今回の更なるおひさま発電所設置につながっていると頭が下がりました。今回のプロジェクトも、その姿勢、想いが子どもたちに伝わりますよう、お手伝いしたいと思います。

◆安全農産供給センター 安全農産供給センターに、おひさま発電所ができる？！

安全農産供給センター（以下センター）は、NPO 法人「使い捨て時代を考える会」（以下会）の流通部門として 1975 年に設立された株式会社です。会員が出資し、配送センターとして設けたもので、昨年 50 周年を迎えました。

母体となっている会は、1973 年、京都大の助教授だった槌田劭（たかし）さんがよびかけ、設立しました。高度経済成長で到来した大量生産・大量廃棄・環境破壊の時代に「このままでは世の中がもたない」と考え、近所をリヤカーでまわる古紙回収からはじめたそうです。一貫して都市の消費者と生産者を結びつける活動を続けています。「食」の未来、本当の意味での安心安全は、消費者と生産者が結びつくことなしには得ることができない、との考えからです。2001 年 NPO 法人となりましたが、法人情報には多岐にわたる目的が記されていました。



安全農産供給センター

「この法人は、使い捨ての時代が、さまざまな形で私たちの生活に深刻な影響を与えている状況のなかで、時代の問題を共に考え、私たちの生活を見直すとともに、環境の保全と有機農業の推進に努め、もって社会全体の利益に寄与することを目的とする」

活動はひろがり、水問題を考えたのせっけん運動、ごみ減量のための牛乳パック回収やリユース瓶システムづくり、1986 年のチェルノブイリ原発事故をうけての脱原発運動など……。入会のおさそい小冊子には「暮らしを通して社会を変える場をにぎやかに運営しています……」とあります。会員それぞれが「環境と食」への考えを持ちよって実践する場になっているのです。そのなかで「食」は一貫して柱になっており、有機生産者と消費者とが共同購入で支えあう関係をつくろうと 1975 年に設立したのが、「安全農産供給センター」というわけです。

今回のプロジェクトは、会員が主になって、生産者と消費者をつなぐ運動を実践しているセンターにおひさま発電所を設置しよう、と「再エネ基金委員会（仮称）」を立ち上げ、活動を始めました。さまざま課題はあるようですが、市民再エネプロジェクトとしてもできる限り協力していきたいと考えています。

（きょうとグリーンファンド　大西　啓子）

化石燃料からの移行に関する第一回国際会議の報告気候変動

気候ネットワーク 中西 航

2026 年 4 月 24 日から 29 日に「化石燃料からの移行に関する第一回国際会議（First Conference on Transitioning Away from Fossil Fuels）」がコロンビアのサンタマルタで開催されました。その概要や成果、日本の状況についてお伝えします。

◆世界的なエネルギー危機のなか脱化石燃料への第一歩となる国際会議開催

気候危機が深刻化する中、2023 年の COP28 で化石燃料からの脱却が合意されましたが、温暖化の最大の要因である化石燃料からいかに脱却するかの議論は停滞しています。さらに、2026 年 2 月以降の米国とイスラエルによるイラン攻撃により、世界は今、深刻なエネルギー危機に直面しており、化石燃料に依存することの危うさがあらためて認識されるようになりました。そのような状況の中、コロンビアやオランダなど脱化石燃料に積極的な有志国は、化石燃料に頼らない社会に向けた具体的な行動のための議論の場として「化石燃料からの移行に関する第一回国際会議」を開催しました。

この会議は国連の気候変動交渉会議の代わりとなるものではなく、むしろそれを補完し脱化石燃料の方向性を共有する国や組織が実務的に話し合う場と位置づけられています。脱化石燃料に意欲を示す約 60 カ国に加えて、NGO、自治体、先住民族など多様なステークホルダーが参加しました。事前の意見募集やオンライン対話も行われ、より広い意見を取り入れようとする努力が見られました。

現地には、多くの NGO・市民社会も参加し、1000 団体近い市民社会が集う「People's Summit」や大規模な気候マーチを開催して存在感を示しました。会議においては、途上国の債務問題や貿易の不均衡是正に切り込み、法的拘束力のある脱化石燃料条約の設立や、新たな化石燃料プロジェクトの停止を提言しました。

◆会議の成果とこれから

会議の成果としては、以下があげられます。

- 第 2 回会議は 2027 年にツバルとアイルランドの共催で開催
- 3 つの作業部会の設置

- ①各国の脱化石燃料ロードマップのデザイン
- ②マクロ経済依存や金融制度改革
- ③貿易システムの構築

- 国連気候変動枠組条約や既存の枠組みとの相互補完性を確認
- IPCC より迅速に最新の知見を提供し、実施をサポートするための科学パネル（SPGET）の設立

作業部会の一つであるロードマップ策定については各国の国連提出目標（NDC）と連携することが示されており、本会議が COP を補完しつつ「実施」に重きを置いていることが示されました。

今回の会議は途上国が対話を牽引し、約 60 カ国が結束を示した点で大きな意義があります。拘束力のある条約が締結されたわけではありませんが、この実践のプロセスそのものが、国際社会の常識を書き換え、化石燃料からの脱却の取り組みが進む原動力となるのではないかと期待します。2026 年 11 月の COP31（トルコ）に向けた準備会合でも、この会議について言及する場面が見られ、国連の交渉を押し進めることが期待されます。

◆世界の潮流に逆行する日本、求められる公正な移行

この会議に日本の姿はありませんでした。不参加の理由について、開催案内や招待状を受け取っていないことに加え、「各国の事情に配慮した多様な道を尊重することが重要である」と説明したことが報じられています。

一方で、日本と米国を除くすべての G7 の国々はこの会議に参加しました。脱化石燃料に向けて多くの国が動きを見せる中で、日本が脱化石燃料の議論にすら向き合っていないことは明らかです。

日本政府はエネルギー危機に直面するなか、非効率石炭火力の抑制策を解除するなど世界の潮流とは逆行する方針を打ち出しています。日本最大の発電会社である JERA は、抑制策の解除を受け、石炭火力の長期売電契約を再開するなど石炭回帰の動きが見られます。しかし、化石燃料依存構造を維持継続することは気候変動を加速させるばかりではなく、富の流出と国力低下を招くことにもつながります。エネルギー危機のいまこそ、化石燃料から再生可能エネルギーへの公正な移行に取り組む姿勢と具体的な貢献を国際社会に示していく必要があります。

きょうとグリーンファンド設立 25 周年に寄せて

私とグリファンの四半世紀

きょうとグリーンファンド理事 藤野 正弘

私とグリファンとの出会いは、今から 24 年前に遡ります。54 歳で企業を早期退職し、きょうと NPO センターに職員として雇っていただきました。その事務所（山忠ビル）でオフィスをシェアしていた一つがグリファンでした。当時、NPO のことは全く無知で、ましてや環境系 NPO のことは何にも知りませんでした。元気のいい女性陣が活発に活動しているというのが第一印象でした。

NPO 法人制度ができ、グリファンも取得しようと一緒に勉強を重ねました。申請の手続きが進み、大阪国税局の職員がヒアリングにやってきて、大西さんと一緒に対応しようとしたところ、関係者でないからと同席を拒まれました。今までの経緯を説明し抗議したところ、「税理士法違反になる」と脅され、涙をのみました。紆余曲折ありながら、2008 年に認定を受けることができました。その後、グリファンにも「環境系」以外の人材も必要だろうと理事に選任され、非力ながら今日まで務めています。

これまでのグリファンの活動は高く評価され、間違いなく社会から必要とされていますが、課題は山積みです。特に、理事を初め事務局も若い力が必要です。次世代を担う体制づくりに、少しでもお手伝いできるよう尽力したいと考えています。

.....

きょうとグリーンファンド理事 秋葉 武

設立 25 周年を迎えられたことを、理事として嬉しく思います。とはいえ、25 年間で「気候変動」が「気候危機」に変わるなど、厳しい圧倒的な現実に向き合っています。きょうとグリーンファンドは解決策を、メガソーラーや華々しい新技術に求めるのではなく、設立当初から「市民一人ひとりの参加によって社会を変える」ということに愚直にこだわってきました。その理念は、今なお色褪せることはありません。そして、大いなる不安を抱えながら設立 50 周年を迎えられるよう頑張っていきましょう。



2026 年 総会報告

昨年の総会と同じ京エコロジーセンターの会議室で、（出席 18 名、Zoom 参加 2 名委任状 5 名、表決書 3 名）開かれ、2025 年度事業報告、決算報告、監査報告、2026 年度事業計画、2026 年度予算、役員改選の各案は、滞りなく承認されました。

2025 年度の太陽光発電設備設置事業は、山科区の陵ヶ岡児童館に 13.2kW の太陽光パネル、蓄電設備、EMS を設置するプロジェクトを「市民再エネプロジェクト in 京都」として進めました。2021 年から活動を始めた「市民再エネプロジェクト in 京都」ですが、各団体の連携も少し手慣れたものとなりつつあり、役割分担もスムーズになってきたようです。

陵ヶ岡児童館は、2004 年におひさま発電所ができた陵ヶ岡保育園と同じ法人、同じ理事長で、20 年余りの年月を経て、さらにおひさま発電所を広げていただいたことが、殊の外喜ばしく思えました。

環境学習はほぼコロナ以前のペースに戻りつつあり、おひさま発電所設置と環境学習を両輪で進める事業計画は、2026 年度も少しずつ工夫を重ねながら広げていければと考えています。

（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）

京都市内の太陽光パネルリサイクル施設見学会

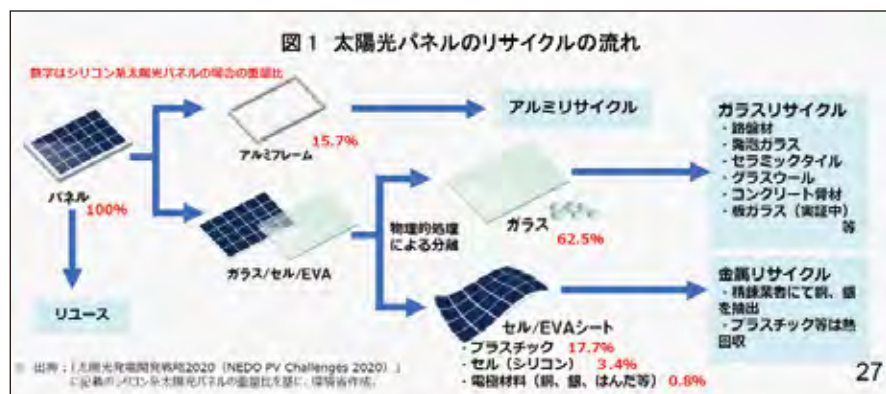
きょうとグリーンファンド

林 敏秋

6月19日、京商 ECO サロン・企業向けごみ減量実践講座「太陽光パネルリサイクル施設見学会」に参加しました。竹田駅に集合してバス一台約30名で横大路の京都環境保全公社・伏見環境保全センターに向かいました。

太陽光パネルリサイクルは、いま最も関心が高いテーマです。実際今年の5月、太陽光パネルのリサイクル推進に関する法案が成立しました。今回の法案は大規模な事業用パネルの排出者に「廃棄実施計画」の事前届出などを義務付けるもので、リサイクルの義務化は先送りしました。EUでは既に義務化され90%近くの回収率をあげています。日本でも義務化を含む制度変更を求めていく必要があります。

そんな中での見学会でした。参加応募者は溢れ抽選だったそうです。関心の高さが表れています。今回見学した工場は実験プラント的な規模で年間2,500枚程度しか処理していません。



太陽光パネルはアルミフレーム、ガラス、太陽電池セル、樹脂のバックシートなどから構成されています。リサイクルのポイントは、アルミフレームを取り除いた後のガラスと接着剤になっているEVA、太陽電池セルをどう分離するかです。この剥がし方でいろいろな方法があります。熱分解方式、ガラス切断方式、ガラス破碎方式です。熱分解方式とは450℃の熱にかけてEVAなどの

樹脂を気化させてガラスとセルを分離します。トクヤマ、新陵等の会社が取り組んでいます。ガラス切断方式は、300℃に熱したナイフでセルとガラスの間に切込みを入れ、EVAとガラスを切断しながら分解します。ホットナイフ法といい八幡市にある浜田などが取り組んでいます。これらの方式はガラスを破碎せずにそのまま取り出す方法です。

ガラス破碎方式は、ガラスを物理的に破壊します。ローラー破碎方式は、ローラーをとおしてガラスを破碎します。以前見学会をした近畿電電輸送がこの方式です。今回見学会があった京都環境保全公社はブラスト方式で破碎しています。ブラスト方式とは、粒子状の研磨材をぶつけてガラスを破碎します。京都環境保全公社では手で破碎作業をしていました。ローラー破碎方式に比べて異物が混じりにくくガラスカレットが細かく砕けています。一枚10分程度で処理しているということでした。破碎されたガラスカレットは建築の断熱材に使い、粉状の物は路盤材に使っているということでした。

太陽光パネルのガラス部分は全体の6割の重量があり、ガラスをどう再利用するかが問題です。普通、分離したガラスカレットは、建築物の断熱材や土壌改良材などに使われます。板ガラスをつくるガラスカレットとして再利用するには異物が混入していない純度の高いガラスカレットが求められます。この高品質な素材を回収するのに適しているのが熱分解方式です。しかし設備費用が高く導入のハードルは高いです。ガラス切断方式はガラスを分離した後、EVAを除去するための専用設備が必要となります。ガラス破碎方式は、比較的設備費用が安く簡単に取り組める方法です。

環境省と経済産業省によると使用済みパネルの排出量予測は、2035年に約25万トン/年、2042年に約47万トン/年を見込んでいます。2024年度は5,046トンでした。処理できるリサイクル施設は87カ所です。京都には3カ所あります。近畿電電輸送、浜田そして今回見学した京都環境保全公社です。処理費用は埋め立て処分は約2千円/枚、リサイクル費用は3千円～3千5百円/枚だといいます。経費からいうと埋め立てに向かいます。今後も再エネを拡大していくためには太陽光パネルのリサイクル(再生利用)は不可欠です。現状のまま放置すればリサイクルは進みません。早急にEUのような義務化が求められます。私たちの住む街にリサイクルの施設があることは心強いことです。もっとこの事実を広めていかなければと思いながら帰路のバスに乗り込みました。



今年度から、園に設置されている「おひさま発電所」を再認識し、きょうとグリーンファンドを知ってもらえるように、環境腹話術や自然観察会の初めに、きょうとグリーンファンドと園が、きょうとグリーンファンドのマスコット「ぐりにゃん」とともに「おひさま発電所」を一緒に造ったことを伝えています。「ぐりにゃん」は、子どもたちにとっても人気があって、登場するだけで大騒ぎになります。

環境腹話術では、電気や水をテーマに地球温暖化について子どもたちにわかりやすく伝えています。子どもたちが家に帰って今日の環境腹話術のお話しができるように、きょうとグリーンファンドオリジナル小冊子、「ぐりにゃんのおひさまありがとう」、「ぐりにゃんの雨だいすき」を配っています。



ぐりにゃん・ぐりわんのパペット

毎年、環境腹話術を実施している園では、年長組の子どもたちは、腹話術人形の「しんちゃん」が出てくるのを心待ちにしている、登場すると椅子から転げ落ちるほど喜んでくれます。お馴染みとなっているフレーズの「CO₂がファン、ファン、ファ〜ン！」も、始まる前から口ずさんでいます。こんなふうに「しんちゃん」や「ぐりにゃん」、「CO₂がファン、ファン、ファ〜ン！」とともに、子どもたちは地球温暖化の仕組みを知り、今の自分たちにできるエコなことが身についていきます。環境腹話術を見た後は、手を石鹸で洗うときに水を出しっぱなしにしないとか、紙を無駄遣いしないとか、子どもたちなりに気を付けているようです。



小冊子「雨だいすき」

自然観察会は子どもたちにとっては遊びの延長で、五感を使って草木や昆虫と触れ合っています。触ったら危険なキノコや昆虫も教えてもらいます。親子参加の自然観察会では、子どもたちと一緒に京都御苑などで身近な小さな自然に触れることで、日常では忘れがちな自然を思い出し、親にとっても貴重な体験になります。



職員研修（カモフラージュ）

職員研修として、自然観察会を実施した園もあります。観察だけではなく、ネーチャーゲームのやり方も体験します。そのひとつが「カモフラージュ」。園の周りにはいろいろな木や花が咲いているので、その中に小さな人形、作りものの葉っぱ…等 15 種類ほどの人工的なものを隠します。自然のものに紛れ、なかなか見つけれません。見つけた数をそっと報告。全数見つけられなかったら、またもう一回です。幼児を対象にする時は、子どもが数えられるくらいの数にしてと、アドバイスがありました。

他には、自然の音を聴く体験もしました。耳をすませて聞こえてくる音を聞きます。小鳥のさえずり、風で葉っぱが擦れる音…。他人が気づかない音が分かったときは、小さくガッツポーズ！先生たちにとって五感を研ぎ澄ませるこの時間は、子どもたちの感性を伸ばしてあげるための貴重な体験になるはずです。

きょうとグリーンファンドは、「おひさま発電所」設置施設が、継続して地域にエコを発信できる施設になるよう、これからもワークショップなどさまざまなプログラムを提供していきます。



教材作りワークショップ（パペットシアター）



雨水タンク設置ワークショップ



エコな催しのお手伝い（夏祭り）

◆今後の環境学習予定

・環境腹話術 9/3（木） ・自然観察会 10/9（金） 10/10（土） 11/7（土） 11/13（金） 11/14（土） 11/18（水）

★みなさんも一度、環境学習を機に、元気な子どもたちに会ってみませんか？

見学をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

（きょうとグリーンファンド 深川、山本、小森）

安全農産供給センターに、おひさま発電所ができること

使い捨て時代を考える会・きょうとグリーンファンド会員 杉林 聡美

安全農産供給センター（以下センター）に、おひさま発電所をつくることになった、と聞いて、心から「よかった！」と思いました。センターはNPO法人「使い捨て時代を考える会（以下考える会）」の流通部門として会員が株主となり、1975年に設立された株式会社です。私は、会の会員として40数年、活動にも加わり、毎週農産物などの供給を受けてきました。

センターでは、有機・無農薬の野菜や加工品などの農産物をはじめとして、乳製品や調味料、粉類、乾物、魚、肉類、石鹸類など、近年取扱品も増えてきました。そして、各生産者も同じ会の会員であることが大きな、そして大事な点だと思っています。

注文書にある品は、それぞれの生産者がこだわりを持って生産したのですが、取り扱いについては、センターや会員が吟味します。ですから、単なる商品でなく「〇〇さんのお豆腐」「〇〇さんのお醤油」…。どこの誰がつくった物か、どんな作り方をしているか、は詳しく伝わってきます。添加物の心配もありません。生産者から消費する会員に運ぶ役目を担うセンターも、単なる販売者ではない、同じ仲間といった感じなのです。

考える会の会員も、センターの取扱品の供給を受けるだけでなく、食と農、健康、環境問題などさまざまな活動に関わっています。これらの活動から牛乳パックの回収システムが広がり、トイレトーパーやティッシュパーパーへと生まれ変わるリサイクルシステムへと発展しました。牛乳パックのリサイクルは、今では当たり前前に社会の中に位置づけられており、「社会の変革」につながったと言えると思います。

1986年に起きたチェルノブイリ（チェルノブイリ）原発事故で放出された放射性物質が日本の各地でも検出され、多くの方が原発について考えるようになりました。京都でも若狭湾には集中して多くの原発があり、あの福島第二原発の事故を経ても、なお稼働中の原発があります。今の暮らしの中で、電気を使わずに過ごすことは考えられません。とすれば、どんな電気を使っていけばいいのか、という問題は、いつも私の中で引っ掛かり続けているのです。自分が使っている電気は、CO₂が出ない、誰もが放射線被爆しない電気なのか。「そう、再エネがある！」と思い、2005年きょうとグリーンファンドの会員になりました。そして今、センターに太陽光パネルをつくらうというプロジェクトが始まる、という話を聞き、私の中に「大賛成！」の旗が立ちました。考える会の「再エネ基金委員会（仮称）」にできる限り、協力しようと考えています。

編集後記

・暑過ぎる夏がやってきました。新しい技術だけで、気候変動と闘えるとは思えない。「必要なのは、ともに動き続ける人々だ…」という記事に出会いました。日常の中で続ける「省エネ」そして、今は「省ブラ」もね。(KO)

・サッカー好きにはたまらないW杯も終わってしまった。どの試合も目の離せない試合が続き、やっぱり「サッカーっていいな〜！」と思う日々だった。でも、あの大統領が口出ししてきた！言いなりになる会長…。二人にレッドカード！！(YF)

・夏は海に山にと行動的で楽しいものと思っていましたが、最近は無事にすごせるか不安になります。(TY)

・梅雨が明けて、急に暑くなりだし、移動の車内で、ハンディファンを使って、「暑い〜」と、うなだれている若者の方に耳を傾けると、「最近の小学生は、暑くてプールに入れないことが、あるねんて、私達の時とは温度が低くて、中止になったりしたけど…」「ほんまに、温暖化やな！」と聞こえてきた。温暖化対策ほんまに必要なやと感じます。(YM)

・奈良県平群町のメガソーラー裁判。大阪高裁で逆転勝訴した。住民側勝った画期的な出来事だ。奈良県知事は上告しないと表明。自然破壊して設置しなくても工場や商業施設の屋根は一杯空いているよ！(TH)

・今年も暑い夏がやってきました。40度を超える酷暑日は、外を歩くだけでクラクラします。乗り切る為にも美味しいものを食べて睡眠をよくとります。(TK)

・表紙におひさま発電所の写真を1号機から載せています。今号は2、5号機。当時は子どもたちの未来のために…と謳っていましたが、今まさに気候災害は顕在化、気候危機は子どもたちの未来ではなく、私たちの現在の危機に…(SK)

ぐりふあん日誌

<2026年>

- | | |
|---|---|
| 3/24 自然エネルギー学校・京都2026検討会議／オンライン | 5/29 一般社団法人のあつく自然学校(高井さん、寺岡さん) 来所 |
| 3/25 一般社団法人のあつく自然学校(寺岡さん)と打合せ／オンライン | 6/7 第158回理事会／京エコロジーセンター
2026年総会／京エコロジーセンター |
| 3/26 上鳥羽北部いきセンエコまちくらぶ見学会参加／株トヨタ | 6/12 一般社団法人のあつく自然学校「市民再エネプロジェクト」京都基金助成事業～おひさま発電所×防災～申請書」受理 |
| 3/29 「下鴨幼稚園おひさまプロジェクト」覚書交換 | 6/13 職員研修(自然観察会)／みょうりんえん |
| 3/31 京都市ごみ減「ハイザイ・アートワークショップ」見学／陵ヶ岡児童館
「陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト」覚書交換 | 6/19 環境腹話術／吉祥院こども園
企業向けごみ減量実践講座 太陽光パネルリサイクル施設見学会参加／(株)京都環境保全公社伏見環境保全センター |
| 4/3 株安全農産供給センター訪問 | 6/22 おひさまプロジェクト打ち合せ／安全農産供給センター |
| 4/10 太陽光発電 設置適性診断調査実施／安全農産供給センター | 6/30 環境腹話術／大宮保育園
NPO法人使い捨て時代を考える会(山田さん)来所 |
| 4/15 上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶ「児童館エコアクション」参加／中唐戸児童館 | 7/3 第159回理事会
自然エネルギー学校・京都2026検討会議／オンライン |
| 4/24 おおやけこども園訪問 | 7/7 Cherry's Hug東向日園訪問 感謝状贈呈 |
| 4/30 2025年度 監査 | 7/22 環境腹話術／つくし保育園 |
| 5/1 NPO法人使い捨て時代を考える会(山田さん)来所 | 7/25 第1回自然エネルギー学校京都・2026／京エコロジーセンター
上鳥羽自治連合会夏の夜市参加／村山公園 |
| 5/8 おおやけこども園「市民再エネプロジェクト」京都基金助成事業～おひさま発電所×防災～申請書」受理 | 7/29 環境腹話術／陵ヶ岡児童館 |
| 5/18 上鳥羽北部エコまちくらぶミーティング／上鳥羽北部いきセン | |
| 5/22 第157回理事会 | |
| 5/25 環境腹話術／陵ヶ岡こども園 | |
| 5/27 株安全農産供給センター「市民再エネプロジェクト」京都基金助成事業～おひさま発電所×防災～申請書」受理 | |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」

◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。



★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2008年国税庁より認定NPO法人として認定されて以来、2015年からは京都市から認定されています。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 35 賛助会員 28

法人会員 6 2026/8 現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150

E-mail ; info@kyoto-gf.org

URL ; <http://www.kyoto-gf.org>

(火～金 13:00～16:00)

